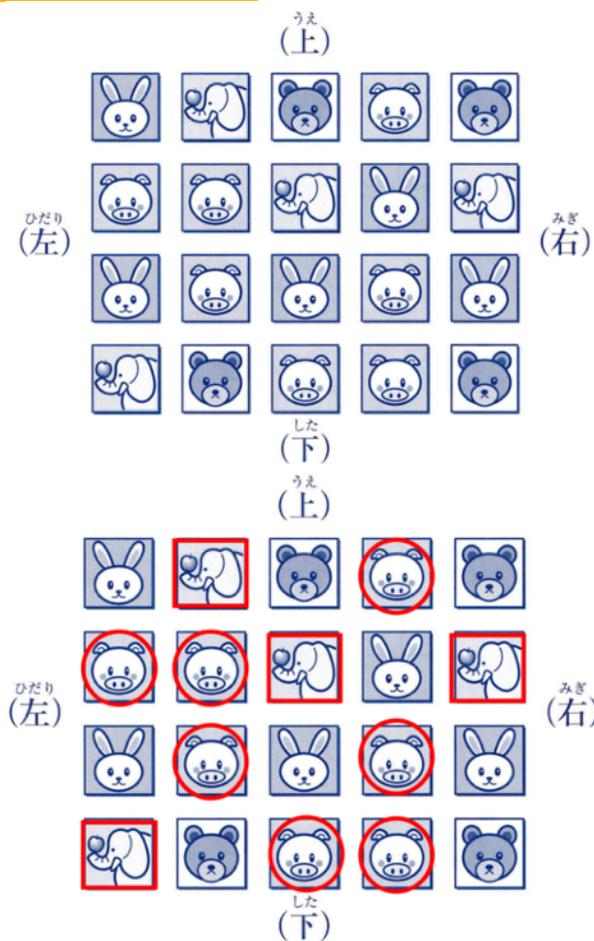


活ママの 教えてください？

—算数編—

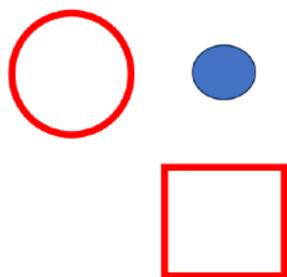


落ちなく重なりなく



活ママ「先生、また、うちの子(二年生)が、教室のお兄ちゃん(四年生)に、今度は『真ん中からはダメだよ』と言われたらしいのですが、これにはどんなわけがあるのでしょうか」
塾長「お母さん、わけが知りたいですね、そこにもきつと活塾のお作法が

あると思われたのですね。さすがです。では、今回は具体的な問題で説明しますね。
問題「くま、うさぎ、ぶた、ぞうの動物シールを20枚はりました。すぐ左にぶた、すぐ下にぞうがはってあります。この動物はなんですか」



塾長「これも初めての子どもは、真つ先に答えを求めようとします。ですが、活塾の子どもはまず準備をします。せつかくの問題です。じつくりまわり道をして味わいます。

ぶたさんには○印、ぞうさんには□印を描いて、問題を解く準備をしましょうと指導します。

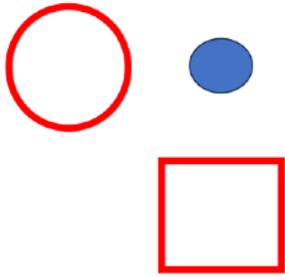
すると、大抵、自分の目に入ったところから印を描いていきます。狩猟本能とでもいうのでしょうか、獲物をゲットするように、真ん中から印を描いていきます。

活塾では小さいころから「落ちなく重なりなく」数的処理をするために、端っことから順に、同じ方向で調べていく態度を養います。縦に見ようが横に見ようが構いませんが、チラシ広告のZの法則や、ウェブサイトのFの法則ではダメです。印を落ちなく重なりなく全部描いてから、すぐ左にぶた、す

ぐ下にぞうの記号パターンをさがすのです。
答えが合っていればいい、速くできた方がいいという子も、低学年のうちには問題がなくても、学年が進んで取り扱うデータが大きくなると、この構えがとて大切で、順列、組み合わせのとき、絶対に必要になります。

それでもその時、間に合えばいいのですが、全部調べるのはめんどうなどと言いつたりしたら、矯正指導はとも困難です。「大丈夫、平気、余裕」という子に限って、答えが複数ある時、一つ見つけて安心してしまい、点数になりません」

活ママ「そうなんです。真ん中からはダメ、よくわかりました。答えが合っているからと言って安心できませんね」
塾長「いやいや、まだ二年生、大丈夫、平気、余裕です」



塾長 「これも初めての子どもは、真っ先に答えを求めようとします。ですが、活塾の子どもはまず準備をします。せつかくの問題です。じっくりまわり道をして味わいます。

ぶたさんには○印、ぞうさんには□印を描いて、問題を解く準備をしましょうと指導します。

すると、大抵、自分の目に入ったところから印を描いていきます。狩猟本能とでもいうのでしょうか、獲物をゲットするように、真ん中から印を描いていきます。

活塾では小さいころから「落ちなく重なりなく」数的処理をするために、端っこから順に、同じ方向で調べていく態度を養います。縦に見ようが横に見ようが構いませんが、チラシ広告のZの法則や、ウェブサイトのFの法則ではダメです。印を落ちなく重なりなく全部描いてから、すぐ左にぶた、す

ぐ下にぞうの記号パターンをさがすのです。

答えが合っていればいい、速くできた方がいいという子も、低学年のうちには問題がなくても、学年が進んで取り扱うデータが大きくなると、この構えがとても大切で、順列、組み合わせのとき、絶対に必要になります。

それでもその時、間に合えばいいのですが、全部調べるのはめんどろなどと言いついたりしたら、矯正指導はとも困難です。「大丈夫、平気、余裕」という子に限って、答えが複数ある時、一つ見つけて安心してしまい、点数になりません」

活ママ「そうなんです。真ん中からはダメ、よくわかりました。答えが合っているからと言って安心してきませんね」

塾長「いやいや、まだ二年生、大丈夫、平気、余裕です」

活ママの 教えてください？

—算数編—



落ちなく重なりなく

活ママ「先生、また、うちの子(二年生)が、教室のお兄ちゃん(四年生)に、今度は『真ん中からはダメだよ』と言われたらしいのですが、これにはどんなわけがあるのでしょうか」

塾長「お母さん、わけが知りたいだなんで、そこにもぎつと活塾のお作法が

あると思われたのです。さすがです。では、今回も具体的な問題で説明しますね。

問題「くま、うさぎ、ぶた、ぞうの動物シールを20枚はりました。すぐ左にぶた、すぐ下にぞうがはってあります。この動物はなんですか」

